

基本計画書

基本計画											
事項		記入欄								備考	
計画の区分		学部の設置									
フリガナ設置者		ガッコウホウジンハチノヘコウギョウダイガク 学校法人八戸工業大学									
フリガナ大学の名称		ハチノヘコウギョウダイガク 八戸工業大学									
大学本部の位置		青森県八戸市大字妙字大開88番地1号									
大学の目的		本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造並びに地域社会の発展に寄与することを目的とする。 この目的を達成するため、教育研究等の目標を次のように定めている。 1. 学生の教育を最優先し、学生の満足度を高め、総合的な成長を確実に達成する大学となること 2. 教育と研究の成果をもって、北東北を主とした地域社会の発展に寄与し、地域とともにある地域のための大学となること									
新設学部等の目的		豊かな人間性と総合的な判断力をもち、デザイン活動の基礎となる知識と技術、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、地域の暮らしの豊かさと多様なあるべき姿を構想する力を有し、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成するとともに、感性デザイン、建築デザイン及び国土デザインのいずれかの専門分野の教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	デザイン工学部 [Faculty of Design and Engineering] デザイン工学科[Department of Design and Engineering] 計	年 4	人 100	年次人 -	人 400	学士 (デザイン工学) 【Bachelor of Design and Engineering】	工学関係	令和9年 4月 第1年次	青森県八戸市大字妙字大開88番地1号		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		1. 工学部（廃止） 工学科（△250） ※令和9年4月学生募集停止 2. 感性デザイン学部（廃止） 感性デザイン学科（△50） ※令和9年4月学生募集停止 3. 総合情報学部 総合情報学科（100）（令和8年5月届出予定） 4. 先進工学部 先進工学科（100）（令和8年5月届出予定）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計						
	デザイン工学部 デザイン工学科	87科目		60科目		12科目		159科目		124単位	
学部等の名称				基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
				教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	デザイン工学部デザイン工学科			14人 (14)	2人 (2)	4人 (4)	0人 (0)	20人 (20)	0 (0)	48 (48)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)			2 (2)	4 (4)	0 (0)	20 (20)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			14 (14)			2 (2)	4 (4)	0 (0)			20 (20)
			0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）			0 (0)					0 (0)
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）			0 (0)			0 (0)	0 (0)			
計（a～d）			14 (14)			2 (2)	4 (4)	0 (0)	20 (20)		

新	総合情報学部総合情報学科		7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)	0人 (0)	57人 (57)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当 するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a ～ b）	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当す るもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a ～ d）	7 (7)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	14 (14)				
設	先進工学部先進工学科		20 (20)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	49 (49)	大学設置基準別表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	20 (20)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	24 (24)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当 するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a ～ b）	20 (20)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	24 (24)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当す るもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a ～ d）	20 (20)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	24 (24)				
分	計		41 (41)	7 (7)	8 (8)	2 (2)	58 (58)	0 (0)	154 (154)	
既			()	()	()	()	()	()	()	大学設置基準別表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	()	()	()	()	()				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当 するもの（a に該当する者を除く）	()	()	()	()	()				
	小計（a ～ b）	()	()	()	()	()				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当す るもの（a 又は b に該当する者を除く）	()	()	()	()	()				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	()	()	()	()	()				
	計（a ～ d）	()	()	()	()	()				
分	計		()	()	()	()	()	()	()	
合 計			41 (41)	7 (7)	7 (7)	3 (3)	58 (58)	0 (0)	154 (154)	

職 種			専 属		その他		計							
事 務 職 員			51人 (51)		0人 (0)		51人 (51)							
技 術 職 員			4 (4)		0 (0)		4 (4)							
図 書 館 職 員			17 (17)		0 (0)		17 (17)							
そ の 他 の 職 員			13 (13)		0 (0)		13 (13)							
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)							
計			85 (85)		0 (0)		85 (85)							
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地		167,094 m ²		0 m ²		0 m ²		167,094 m ²					
	そ の 他		16,909 m ²		0 m ²		0 m ²		16,909 m ²					
	合 計		184,003 m ²		0 m ²		0 m ²		184,003 m ²					
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
			50,289.64 m ² (50,289.64 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		50,289.64 m ² (50,289.64 m ²)					
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		38 室		教 員 研 究 室		30 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕冊		機械・器具 点		標本 点	
	デザイン工学部		104,576〔14,984〕 (105,776〔15,024〕)		172〔 0 〕 (192〔 0 〕)		56〔 1 〕 (56〔 1 〕)		1〔 1 〕 (1〔 1 〕)		1,934 (2,254)		0 0	
	計		104,576〔14,984〕 (105,776〔15,024〕)		172〔 0 〕 (192〔 0 〕)		56〔 1 〕 (56〔 1 〕)		1〔 1 〕 (1〔 1 〕)		1,934 (2,254)		0 0	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			大学全体		
			4,132.6 m ²			0 m ²			1,450.53 m ²					
経費 の見 積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	電子ジャーナルは 大学全体で共 用				
		教員1人当り研究費等		300千円	325千円	350千円	400千円							
		共同研究費等		30,000千円	32,500千円	35,000千円	40,000千円							
		図 書 購 入 費	500千円	500千円	500千円	500千円	500千円							
		設 備 購 入 費	50,000千円	30,000千円	32,500千円	35,000千円	40,000千円							
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
				1,530千円	1,280千円	1,280千円	1,280千円	-	-					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等											
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		八戸工業大学											
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地				
	工学部工学科		4	250	年次 人 -	1,000	学士（工学）	-	令和4 年度	青森県八戸市大字妙字 大開88番地1号				
	感性デザイン学部 感性デザイン学科		4	50	-	200	学士 （感性デザイン）	-	平成17 年度	青森県八戸市大字妙字 大開88番地1号				
附属施設の概要			名 称：工作技術センター（大学設置基準第39条該当施設） 目 的：学生の実験・実習施設としての機能をはじめ、資格取得支援や学内でのテクニカルサービスを含めたものづくりの向上に資することを目的とする。 所在地：青森県八戸市大字妙字大開88番地1号 設置年月：平成6年4月 規模等：面積 1,096m ²											

学校法人八戸工業大学 組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員		令和9年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	変更の事由
八戸工業大学					八戸工業大学				
工学部	工学部	250	-	1,000	工学部	工学部	0	-	0 令和9年4月学生募集停止
感性デザイン学部	感性デザイン学科	50	-	200	感性デザイン学部	感性デザイン学科	0	-	0 令和9年4月学生募集停止
					総合情報学部	総合情報学科	100	-	400 学部・学科の設置(認可又は届出)
					先進工学部	先進工学科	100	-	400 学部・学科の設置(認可又は届出)
					デザイン工学部	デザイン工学科	100	-	400 学部・学科の設置(認可又は届出)
	計	300	-	1,200		計	300	-	1,200
八戸工業大学大学院 博士前期課程					八戸工業大学大学院 博士前期課程				
工学研究科	機械・生物化学工学専攻	5	-	10	工学研究科	機械・生物化学工学専攻	5	-	10
	電子電気・情報工学専攻	5	-	10		電子電気・情報工学専攻	5	-	10
	社会基盤工学専攻	5	-	10		社会基盤工学専攻	5	-	10
	計	15	-	30		計	15	-	30
八戸工業大学大学院 博士後期課程					八戸工業大学大学院 博士後期課程				
工学研究科	機械・生物化学工学専攻	2	-	6	工学研究科	機械・生物化学工学専攻	2	-	6
	電子電気・情報工学専攻	2	-	6		電子電気・情報工学専攻	2	-	6
	社会基盤工学専攻	2	-	6		社会基盤工学専攻	2	-	6
	計	6	-	18		計	6	-	18

教 育 課 程 等 の 概 要 (デザイン工学部デザイン工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
キャリア教育科目	スタートアップセミナー	1前	○	1				○							1	オムニバス オムニバス
	キャリアデザインⅠ	1通	○	1				○							1	
	キャリアデザインⅡ	2通	○	1				○							1	
	キャリアデザインⅢ	3通	○	1				○							1	
	科学技術概論	1前			2		○			3					4	
	職業倫理	3前	○	2			○			1					7	
	小計（6科目）	－	－	6	2	0	－			3	0	0	0	0	12	
総合教養科目	人文学	2後			2		○								1	オムニバス
	海外文学	2後			2		○			1						
	歴史A	1後			2		○								1	
	歴史B	1後			2		○								1	
	地域経済学	1前			2		○								1	
	心理学	2前			2		○			1						
	認知心理学	3前			2		○			1						
	哲学	2後			2		○			1						
	日本国憲法	3後			2		○								1	
	知的財産論	3前			2		○								1	
	小計（10科目）	－	－	0	20	0	－			2	0	0	0	0	5	
	国際コミュニケーション科目	1前			2		○			1						オムニバス
	実践日本語表現	2前			2		○			1						
	異文化コミュニケーション	4前			2		○			2					2	
	英語表現	1前			2			○		1						
	英会話	1前			2			○							1	
	英文解釈	1前			2			○							1	
	実践英語	1前			2			○							1	
	English Communication	2前			2			○							1	
	English Reading	2前			2			○							1	
	Global English	2前			2			○							1	
	Technical English	2前			2			○							1	
	外国語特別演習	2前			2			○		1						
	海外研修	1後			1			○		1						
	第二外国語Ⅰ	1前			2			○							1	
	第二外国語Ⅱ	1後			2			○							1	
	小計（15科目）	－	－	0	29	0	－			3	0	0	0	0	4	
体育科学科目	体育学	1前			1				○						2	共同
	スポーツ健康学	2前			1				○						2	共同
	生涯スポーツ演習	1後			1				○						2	共同
	小計（3科目）	－	－	0	3	0	－			0	0	0	0	0	2	オムニバス
総合学際科目	北東北八戸の地域学	1後			2		○			1	1				4	
	主題別ゼミナールⅠA	1後			1			○							1	
	主題別ゼミナールⅠB	1後			1			○							1	
	主題別ゼミナールⅠC	2前			1			○							1	
	主題別ゼミナールⅠD	2前			1			○							1	
	主題別ゼミナールⅡ	2後			2			○							1	
	主題別講義A	2後			2		○								1	
	主題別講義B	2後			2		○								1	
	主題別講義C	2後			2		○								1	
	小計（9科目）	－	－	0	14	0	－			1	1	0	0	0	6	

基盤科学科目	情報数理科 学 科 目	数学基礎	1前		1		○							1	オムニバス	
	微分	1前			2		○							1		
	積分	1後			2		○							1		
	線形代数	1後			2		○							1		
	確率・統計	2前			2		○							1		
	解析学Ⅰ	2後			2		○							1		
	解析学Ⅱ	3前			2		○							1		
	幾何学	2前			2		○							1		
	AI・データサイエンス入門	1後	○	2			○			2						5
	データアナリティクスⅠ	2後			2		○				1					
	データアナリティクスⅡ	3前			2		○									1
	小計（11科目）	—	—	3	18	0	—			2	0	1	0	0	6	
	自然科学科目	物理学概論	1前			1		○							2	共同
		基礎物理学Ⅰ	1前			2		○							3	共同
		基礎物理学Ⅱ	1後			2		○							3	共同
現代物理学概論		2後			2		○							2	共同	
物理学実験		1前・後			2				○					3	共同	
基礎化学Ⅰ		1前			2		○							1		
基礎化学Ⅱ		1後			2		○							1		
化学実験		1前・後			2				○					1		
生物学		1前			2		○							1		
海洋学の基礎と未来		1後			2		○							1		
地学概論		1前			2		○							1		
地球環境論		2前	○	2			○			1						
カーボンニュートラル入門		1後	○		2		○			2				7	オムニバス	
小計（13科目）		—	—	2	23	0	—			2	0	0	0	0	12	
デザイン学 科 目	デザインと技術	1前	○	2			○			2		1			5	オムニバス
	デザイン思考概論	1後	○	2			○								1	
	デザインリテラシー	1後			2		○								1	
	美術史	1前			2		○				1					
	色彩学	1後			2		○				1					
	ユニバーサルデザイン	3後	○		2		○			1						
	デザイン基礎演習ⅠA（デッサン）	1後			1			○			1					
	デザイン基礎演習ⅡA（デッサン）	1後			1			○			1					
	デザイン基礎演習ⅠB（表現技法）	1前			1			○						1		
	デザイン基礎演習ⅡB（図学）	1前			1			○		1						
	デザイン基礎演習ⅠC（工芸）	1前			1			○						2	共同	
	デザイン基礎演習ⅡC（工芸）	1前			1			○						2	共同	
	デザイン基礎演習ⅠD（写真）	1後			1			○				1				
	デザイン基礎演習ⅡD（製造）	1後			1			○				1				
	共創デザイン演習	2前	○		2			○			1					
小計（15科目）	—	—	4	18	0	—			3	1	2	0	0	7		

専門 科目	共通 科目	デザイン工学概論	1前	○	2			○			5	2	1				オムニバス
		基礎情報科学D	1前	○	2				○				2				共同
		基礎製図	1後	○	2			○			1		1				共同
		CAD/CG基礎演習	1後	○	2				○		1		1			1	共同
		材料の力学	1前	○	2			○					1				
		学外研修D	2後			1				○	1						
		インターンシップD	3前			1				○	1						
		サーキュラーデザイン演習	3前	○	2				○		3		3				共同
		地域創生デザイン演習	3後	○	2				○		4	1	1			1	共同
		デザイン工学ゼミナールⅠ	3集	○	2				○		11	2	4			1	共同
		デザイン工学ゼミナールⅡ	3集	○	2				○		11	2	4			1	共同
		卒業研究D	4通	○	6				○		12	2	4			1	共同
		小計（12科目）	—	—	24	2	0	—			12	2	4	0	0	2	
	感性 デザ イン 科目	フィールドワーク演習	1後			2			○		1						
		タイポグラフィー	2前			2		○				1					
		ビジュアルデザイン演習	2後			2			○			1					
		材料・塗装学	2前			2		○				1					
		現代芸術論	3前			2		○								1	
		応用デザイン演習ⅠA（絵画）	2前			2			○							1	
		応用デザイン演習ⅡA（絵画）	2後			2			○							1	
		応用デザイン演習ⅢA（彫刻）	3前			2			○							1	
		応用デザイン演習ⅠB（イラスト）	2前			2			○							1	
		応用デザイン演習ⅡB（イラスト）	2後			2			○			1					
		応用デザイン演習ⅠC（工芸学）	2集			2			○							1	
		応用デザイン演習ⅡC（プロトタイプ）	2後			2			○				1				
		応用デザイン演習ⅢC（プロダクト）	3前			2			○		1						
		応用デザイン演習ⅠD（映像）	2前			2			○							1	
		応用デザイン演習ⅡD（Web）	2後			2			○							1	
		インターメディア造形演習Ⅰ	3前			3			○				1			1	共同
		インターメディア造形演習Ⅱ	3後			3			○			1				1	共同
		感性デザイン総合演習	2集			2		○			1						
		アートプロジェクト	3集			2			○			1					
		地域デザインプロジェクト	4集			2			○				1				
		小計（20科目）	—	—	0	42	0	—			3	1	1	0	0	5	
	建 築 デ ザ イ ン 科 目	建築史	1後			2		○			1						
		近代建築・デザイン史	2前			2		○			1						
		インテリアデザイン	2前			2		○								1	
		CAD/CG発展演習	2後			2		○			1		1				共同
		音と光の建築環境学	3前			2		○			1						
		住居計画	3後			2		○				1					
		建築材料学	2前			2		○								1	
		建築材料実験	2後			2				○	2						共同
		建築計画	2後			2		○					1				
		建築法規	2後			2		○			1						
		建築設計Ⅰ	2前			3			○		1					2	共同
		建築設計Ⅱ	2後			3			○		1					2	共同
		雪国の建築環境学	3後			2		○					1				
		建築生産施工DX	3前			2		○								1	
		建築設備	3後			2		○					1				
		建築構造Ⅰ	3後			2		○				1					
		建築設計Ⅲ	3前			3			○				1			2	共同
		建築設計Ⅳ	3後			3			○			1				2	共同
		地盤工学Ⅰ	2後			2		○			1						
		地域施設計画	3前			2		○					1				
		建築構造Ⅱ	3後			2		○								1	
		小計（21科目）	—	—	0	46	0	—			7	1	2			9	

国土 デザ イン 科目	施工技術DX	3後			2		○								1	オムニバス・共同 オムニバス・共同 <
----------------------	--------	----	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---

授 業 科 目 の 概 要				
(デザイン工学部デザイン工学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア 教育 科目	スタートアップセミナー	○	演習科目。大学における学修を円滑に進めるため、基本的な学修態度の養成、および学修に必要な種々の技術（アカデミック・スキル）を学ぶ。また、多くの情報があふれる現代において、情報を収集、判断および活用するスキルを身につけると共に、自身の考えを纏めて文章化するための基礎を学ぶ。	
	キャリアデザインⅠ	○	演習科目。高校から大学生活への円滑な移行を図るため、履修科目の選択の仕方や受講の心構え、大学生活の留意点などのガイダンス、自らの学習成果の到達点を確認する開講試験を行う。あわせて、履修登録と授業評価に関する指導も行う。次いで、自分の個性を理解する適性試験、将来の進路を考える手がかりとなるキャリアプランニング等を行い、職業への理解や就職までに心がける事項に関するヒントを学び、大学で自ら必要な情報を入手し行動を起こして学修を進める能力を高める。	
	キャリアデザインⅡ	○	演習科目。企業の取り組みや企業人としての心構え等に関する企業の人事担当者による講演を聴くことにより、職業に対する理解を深め、自分の将来の進路を考える力を高め、業界・企業研究を行う。これらにより、自分の学ぶ専門分野とその成果が社会でどのように役立っているかを学び、今後取り組む専門教育に対して自らの目標を立てる。また、インターシップ、上級生・卒業生による就職活動体験発表聴講、就職模擬試験受験等により就職活動に対する意識を高める。	
	キャリアデザインⅢ	○	演習科目。就職活動の実践的スキルの獲得と円滑な活動へ向けての支援、個々人の目的意識の向上などキャリア形成を目的とする。就職ガイダンスや業界研究方法および業界情報に関する就職講演会などを通じて、将来の進路に対する自分の考え、目標達成のための方法・行動のあり方を明確化し、進学や就職活動の計画を立てることを期待する。就職懇談会、エントリーシート・履歴書指導、面接対策講座や一般教養・SPIの模擬試験などを通して、実践的な就職活動の準備に取り組み必要なスキルを高める。	
	科学技術概論		講義科目。本講義では幅広い工学分野における包括的な内容について学習する。また、工学の各分野の現代的課題とその解決方法について理解を深める。工学科各分野（機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、土木工学、建築学）の教員がそれぞれの分野の概要と社会における役割、さらに最近のトピックスや課題とその解決に向かう手法、研究事例などについて紹介する。（オムニバス方式／全15回）（9 竹内貴弘／3回）工学の包括的内容を担当する。（26 工藤祐嗣／2回）機械工学分野を担当する。（38 石山俊彦／2回）電気電子通信工学分野を担当する。（32 藤岡与周／2回）システム情報工学分野を担当する。（41 星野保／2回）生命環境科学分野を担当する。（11 加藤雅也／2回）土木工学分野を担当する。（10 小藤一樹／2回）建築学分野を担当する。	オムニバス
	職業倫理	○	講義科目。この四半世紀、大企業や政府・公的セクターの不正や違法行為が後を絶たない。これに専門的な職業人も深くかかわっている。専門的職業人は、一〈公衆〉としてはもとより、〈専門性に立つ市民〉として、この問題に真摯に向き合わなければならない。そのため、多様な専門職に関する諸法令の意味を理解するだけでなく、自己の職責と行為が自然や社会に及ぼす影響とその意味について、「法令遵守」を超えた高度の判断と評価の能力が求められる。こうした職業倫理とその核心となる社会的責任意識を、15回の講義をとおして学びとるのが、講義の主要な目的である。（オムニバス方式／全15回）（47 非常勤講師／7回）総論を担当する。（30 佐々木崇徳／2回）基礎科学関連および全体のまとめを担当する。（33 折田久幸／1回）機械工学関連の事例を担当する。（29 石山武／1回）電気工学関連の事例を担当する。（61 本波洋／1回）情報工学関連の事例を担当する。（40 鮎川恵理／1回）生命工学関連の事例を担当する。（9 竹内貴弘／1回）土木建築工学関連の事例を担当する。（63 戴周杰／1回）感性デザイン関連の事例を担当する。	オムニバス

総合教養科目	人文・社会科学科目	日本文学		講義科目。日本の文学について、文学作品に興味・関心を持ち、文学に関する基礎的な教養知識を養う。普段、小説や古典作品を読まない者も対象に含めた、初心者向けの講座である。まず作家たちの生涯や、時代背景、文化的問題まで確認したうえで、作品を読む。そのうえで、興味深いところや読みどころを探し、最後に作品の解釈を考える。全講義を通して、「読む・書く」能力を養い、文学に関する基礎的教養を身に付ける。	
		海外文学		講義科目。海外の文学について、文学作品に興味・関心を持ち、文学に関する基礎的な教養知識を養う。普段、小説や古典作品を読まない者も対象に含めた、初心者向けの講座である。まず作家たちの生涯や、時代背景、文化的問題まで確認したうえで、作品を読む。そのうえで、興味深いところや読みどころを探し、最後に作品の解釈を考える。全講義を通して、「読む・書く」能力を養い、文学に関する基礎的教養を身に付ける。	
		歴史A		講義科目。近現代の世界史とのかかわりで、「明治維新」にはじまる日本の歴史を講義する。具体的な講義内容は、同じアジアの近隣諸国への絶えざる対外的な侵略戦争に規定された日本の近現代の社会とその歴史の生涯の大きな特徴となる6～7つのテーマ(問題)である。15回の講義をとおして、歴史への前向きな関心と、歴史認識の形成に資する近現代日本の通史的な理解を獲得する。テーマによっては、対話を前提とした簡単なディスカッションを実施する。	
		歴史B		講義科目。八戸地域を中心とし、青森県や北東北地域の歴史に関する講義を行う。地域の風土や気質、文化に影響を与えた歴史的なトピックを取り扱い、地域の大学として、今後の八戸地域や北東北を考えるための知識を身に着けることを目的とする。	
		地域経済学		講義科目。経済学の基礎を幅広く学び、社会科学的思想力を身につけることにより、現代社会が直面する経済問題の本質を理解するための思考力・分析力を養う。人が日常の生活を営むためには、財・サービスを生産・分配・消費・廃棄する一連の活動が不可欠であり、経済学はこうした経済のしくみと機能を明らかにし、多様な経済問題を解明することで発展してきた。この授業では、経済学の基礎的な知識を修得するため、経済学の対象と課題、基礎理論について概説するとともに、経済問題の現状を可能な限り取り上げ、学生自らの主体的かつ継続的な学びを促し、思考力と分析力を養う。	
		心理学		講義科目。主として心理学の基礎知識を、研究方法と関係づけて学習することを目的とする。まず、心理学の「歴史と方法」を学ぶことで、非実体である「心」が、科学的な検討の対象とされるようになった19世紀以降の経緯を辿る。さらに、人間の基本的な精神活動である「感覚・知覚」「記憶」「学習」「思考と言語」「情動と動機づけ」「社会行動」について、著名な研究者による重要な知見を中心に学ぶとともに、それらを導いた研究方法とあわせて学ぶことで、理解の深化を図る。	
		認知心理学		講義科目。人間の知覚に関する情報処理アプローチの考え方の基礎および応用的な知見を中心に説明し、きめ・運動といった、さまざまな視覚刺激属性の認識の理解および、それらに関する、さまざまな哲学的思想背景の習得する。その上で、芸術鑑賞や知的ゲームの遂行といった、人間の高次精神作用の理解を目指す。また、情報処理アプローチへの理解を深化させるため、そのアンチテーゼとされる直接知覚論の内容も解説する。	
		哲学		講義科目。現代哲学では、私たちが日常直面するさまざまな諸問題について思考し、積極的に発言し、自ら活動するのが一般的である。本講義では、こうした哲学理解にもとづき、人間の「意志決定」についての様々な知見を学んだ後、心理学者コールバーグとギリガンの倫理観を比較・考察する。また、これらの知識に基づき、政治のあり方について、日常の身近なケースを例示しながら討議する。また、「歴史と責任」に関する三つのテーマを追究し、受講学生がテーマに関わるメッセージに応答する講義を基本線とする。	
		日本国憲法		講義科目。日本国憲法の基本原理・統治機構・基本的人権の保障について学び、具体的な判例などを通して問題点を掘り起こして、今日的憲法問題を考える。「憲法」には掟（おきて）、矩（のり）、という意味と、国家の基本法という意味がある。前者の例としては、聖徳太子による「十七条の憲法」がその典型であろう。後者は、国家の根本法・最高法規としての憲法で、国家の統治体制の基礎を定める法であり、近代民主主義国家にはなくてはならない法律のひとつだ。その内容は国家の政治体制（日本であれば民主主義）、その国を構成する人民の人権保障（人権規定）、政治の構造機能（三権分立による統治機構）などである。本講義では後者の立場を取り、授業を進めていく。	

		知的財産論		講義科目。対象の本質読取りに基づくアイデアや発想をカタチにするビジュアルデザインにおいても、魅力的な空間づくりをコーディネートするリビングデザインにおいても、またその土地ならではの資源・価値を活用した地域社会のデザインにおいても、その中の「知的財産」を把握し、適切に保護・活用できるようになることは重要である。本講義の目的は、知的財産の意義を理解し、現在および未来（あるいは過去も）の潜在価値を、自身の日常の中に見出せる感性づくりの契機を提供することである。	
国際コミュニケーション科目		日本語表現法		講義科目。「読む・書く」に関わる基本的な日本語表現能力の養成を目標とする。日本語学に関する基礎的な事項から、論文・レポート作成で必要となるデータ分析や文章構成法、社会人として求められる敬語や文書に関する基本的な知識まで、日本語に関する教養知識を身に付ける。日本語がどういった言語か、外国語と比較してどのような特徴を有しているかといったことを学び、社会の多様性や自国の文化について洞察する力を身に付ける。	
		実践日本語表現		講義科目。日本語に対する理解を深め、特に社会人としての基本的なコミュニケーション能力の涵養を目的とする。自分の意見を論理的に述べる手法を学び、小論文を作成するなど、より実践的な日本語表現能力の養成を目指す。語彙・語法など日本語学に関する基礎的な事項から、文章読解や要約の基礎、論文・レポート作成の基礎としてデータ分析や文章構成法のほか、学内外でのコミュニケーションにおいて必要となる敬語や文書・メール、基礎的マナーなどにいたるまで、幅広く日本語に関する教養知識を身に付ける。	
		異文化コミュニケーション		講義科目。オムニバス方式（全15回）。国ごとによる言語や文化などの違いを学び、多様な社会に対する理解力や洞察力を身に付け、今後急速に変化する社会へ適応する力を養う。第1回～第11回で、地域や国によってコミュニケーションの取り方が異なること、日本語や日本人に対する学び、外国語（特に英語）に対する学び、ノンバーバル・コミュニケーションの3種に分けて理解したうえで、英語圏の社会と文化を知り、認識を深める。第12回～第15回で、東南アジア、北欧・東欧の社会と文化を学ぶことで、地域や国、個人の価値観の違いについてより幅広く理解する。加えて、そうした知識を踏まえ、実際にコミュニケーションがどのように行なわれているのかについて学び、コミュニケーションの実践としてグループワーク等を行なう。（オムニバス方式／全15回）（35 佐藤手織／3回）日本人論を担当（33 高橋史朗／4回）英米の社会・文化を担当（13 戴周杰／4回）アジアの文化を担当（30 星野保／4回）北欧・東欧の社会・文化を担当	オムニバス
		英語表現		演習科目。自己表現に必要な短時間で英文を構成するための知識の定着とスキルの向上を目的とした授業を行う。プレゼンテーションや英会話の実践には、誤解が生じないだけでなく、短い文章であっても自然に発話することが求められる。そこで本科目では、基盤となる英文法を定着させ、短い文章を作る構成力を強化することを目指しつつ、それと並行して語彙の増強を図る。コミュニケーション上支障が生じないミスを恐れることなく、伝えようとするのが確実に理解される英文を短時間で効果的に作るための指導が中心となる。	
		英会話		演習科目。英語での相互コミュニケーションの多様な機会を提供することに加え、受講生にとって関心が深く、また重要性の高い状況設定の中で活動させることを通じ、英語の実践的なスピーキングとリスニングの能力を掘り起こすことに焦点を当てる。また授業字の活動においてはオーラルコミュニケーションが課題の中心となるが、円滑な意思疎通を阻害する課題を解決するために必要な語彙と文法についてもある程度の力を割いて指導する。学生には能動的な参画が求められ、受発信を繰り返すことで、界限のスキルに自信を深めることを目指す。	
		英文解釈		演習科目。本科目ではまとまった分量の英文を正確に読み、概要を把握する力を向上させることを目指す。現代の社会人にふさわしい英語力の基盤となる語彙・表現にかかわる知識を定着させるとともに、それらを読解に応用することができる英語力を高めるための演習を行う。加えて、様々なメディアから情報を得るために不可欠な知識を修得することで、自ら継続的に英語力を高める学習力を涵養させる。教室では読解力の養成を中核としながらも、リードアラウドを求め、発音練習を取り入れることで、オーラル要素を含むリーディングの演習を行う。	
		実践英語		演習科目。英語を用いる実践的なシーンを想定した学習を行う。オーラルコミュニケーションの基礎能力に加え、プレゼンテーションやディベートにも対応できるよう、自己表現、状況の叙述、意見交換、依頼、目標設計といった具体的な場面で用いられる応用的な表現力を高める。また、言語活動に必要な文法や語彙についても同時に強化することで、現代の多様なコミュニケーションシーンに対応する能力を育成する。教室ではテキストを用いるものの、教員とのインタラクションに重点を置き、学生個々が自らの課題を改善できるよう促す活動を取り入れる。	

		English Communication		演習科目。英会話を中心として、ハイレベルのコミュニケーションを学ぶ。オーラルコミュニケーション力を強化するため、リーディングやライティングよりリスニングとスピーキングに重点を置くが、目標はあくまでも円滑な英語の運用能力の向上にあり、受講生は文法や語彙なども含めた幅広い学習項目に取り組むことになる。教室では多様性のある会話活動に参画することになる。教室では、本学の学生が関心を有しているだけでなく、在学中及び就職後の重要性を加味した具体的状況を設定して言語活動を行い、実践的な英語能力を涵養する。	
		English Reading		演習科目。スピーチなどの題材を活かして、リーディングに軸足を置きつつリスニングや自己表現につながる学習を行う。オーラルの発話スクリプトのような文章には、会話的要素はもとより、シチュエーションに適合する文語的表現などの多様性がある。本科目の受講生は単にそれを読むのではなく、リスニングや自己表現に展開することが求められる。また、新しい語彙を多く取り入れた授業になるので、それを目と手で覚えるだけでなく、聞いて発話できるよう訓練する。	
		Global English		演習科目。4技能すべてを取り扱う総合的で高度な内容の科目となる。自然なスピードで話されている英語のリスニング、短い時間で会話を構成するスピーキング、パラグラフの構成を意識したリーディング、書類作成などに応用できるライティングが主な内容となる。語彙に関しては特に、動画、チャット、メールなどの多様なメディアでの英語表現に触れることで、今を生きる英語の自然な表現を修得することになる。一方、スポーツやサブカルチャーのような受講生にとってなじみ深いモチーフを取り入れ、能動的な活動を支援する。	
		Technical English		演習科目。本学の学生にとっての実用英語であり、技術者や科学者を志す人材に不可欠な英語の基礎の習得を目指す。科学技術に関する英語の基本的表現に慣れ親しむとともに、その分野の英文を適切に理解するための読解力を伸長させ、同分野の社会人に求められる表現能力の向上を図る。教室では、科学技術に関する英文を読みつつ、多様な表現の意味や使われ方を学ぶことが中核となる。科学技術に携わる人材として、生涯にわたって自己研鑽を積むための基盤を育成することを目指す。なお、受講生には技術英検の受験を勧奨するが、受講の条件とはしない。	
		外国語特別演習		演習科目。学生が国際学術会議において研究発表を行う場合の英語プレゼンテーションに関する知識及び技能、英語プレゼンテーション終了後の英語による質疑応答の対応に関する知識及び技能を身に付ける。またこの授業では、実際に自主教材の読解を通して、学術研究で要求される英語リーディング能力の重要性を理解し、その能力の向上のし方を学ぶ。さらに英語プレゼンテーション能力と関連づけながら、英語ライティング能力の重要性を理解し、その能力の向上のし方を学ぶ。	
		海外研修		演習科目。この科目は、まず、本学での事前研修を行い、その後、海外での研修に赴く。そして、現地の研修は、教室内での外国語の授業と各地の見学などの二つの柱からなっている。現地での研修時は、主に3点に留意する。①海外研修の参加者同士で交流し、親睦を深め、研修中に協力し合える関係をつくること、②ホストファミリー等のマッチングに必要な資料を準備しながら、自分のひとなり、好きなことなどを自覚し、他者に語ることができること、③現地の外国語の特徴を概観しながら、現地の文化と社会についてレディネスを得ること、ホストファミリーや寮などでの適応過程での留意点を知り心構えを得ること。	
		第二外国語Ⅰ		演習科目。中国社会に対する理解を深めながら、中国語の初歩のレベルを習得する。中国語Ⅰでは、初めに母音、次に子音、さらに声調と呼ばれるアクセントを学習した後、日本語の50音表に相当する音節表に基づいて練習する。その後易しい日常的な会話文や短文を用いて、それらの表現に含まれる会話の練習、すなわち「聞き」「話す」訓練を行うと同時に、それらの表現に含まれる基礎的な文法事項を学習する（原則として毎回授業の始めに発音練習を行う）。	
		第二外国語Ⅱ		演習科目。中国の文化、社会、歴史に対する理解を深めながら、中国語の初歩のレベルを習得する。中国語Ⅰの学習を受け継ぎ、より複雑で長い文や会話文によって行われる。音読はできるだけ自然な調子で発音できることを、聞き取りは、より多くの語彙や表現の理解と紛らわしい近似音の弁別ができることを目標に練習を進める。文法事項は、平易な文章（会話文を含む）を理解する上で必要な基礎的な項目を一通り学習する。なお、中国語Ⅰ、Ⅱ共に中国映画、音楽などを鑑賞することで、中国の文化、社会、歴史に対する理解を深める。	
	体育科学科目	体育学		実験・実習科目。本講義は体育実技科目であり、屋外コース、屋内コースから選択することができる。体力測定およびスポーツ活動を通じて心身を鍛えることを目指し、集団でのスポーツ種目を通じて、他者とのコミュニケーションを深め、ともに協力する姿勢を身に着ける。また体力測定の実施により、現状を把握し、スポーツ活動を通じて体力と技術の向上に取り組むことを目的とする。また体育の実践に必要となる、ルールや身体に関する内容の講義を行い、知識と実践を合わせて学習を進める。	共同

		スポーツ健康学		実験・実習科目。本講義は体育実技科目であり、体育学（1年次開講）の発展的な内容とする。体力測定およびスポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大により、スポーツ活動を通じて心身を鍛えることを目的に実施する。また健康に関する知識を身に着けて、生涯にわたり身体活動を通じて自身の健康の保持、増進ができるようになる基礎をつくることを目指す。ガイダンス後に体力測定を行い、屋外コース・屋内コースを選択し実施する。また実習コースでは、学内で経験できないスポーツ種目（ゴルフ・スキー、スノーボード）を体験し、社会的なスポーツの役割について学ぶ。	共同
		生涯スポーツ演習		実験・実習科目。本講義は、スポーツ種目を教材とし、心身の健康と身体運動のかかわりについて学ぶことを目的とする。生涯スポーツに関する社会的な背景、基本的な理論を学習したうえで、スポーツ活動を実施する。内容は気軽に取り組むことができるニュースポーツや身体の調整能力を鍛えるコーディネーショントレーニング、ストレッチ等の内容とする。様々な身体活動を通じて、生涯にわたりスポーツに親しむことにつながる知識と体験を本講義を通じて学ぶ。	共同
総合学際科目		北東北八戸の地域学		講義科目。八戸地域を中心に北東北地域の特長と課題を把握するために、地域における人文科学（歴史・文化、言語・文学、生活）、社会科学（地理、政治・経済、産業）、デザイン学、自然科学（自然・環境、生態、地学・地質、資源・エネルギー）あるいは工学（機械、電気・情報、土木・建築、化学、健康・食品）に関する様々なトピックスについて講義する。将来的な地域課題解決を考える上での基礎知識を修得し、複数の学問・領域にまたがる内容の理解を通じて、広い視野と多面的な考察力により、安全・安心、健康で文化的な地域社会を創り出すことができる人材の育成を目的とする。（オムニバス方式／全15回）（6 金子賢治／2回）地域学の基礎、社会科学（地理、政治・経済、産業）を担当する。（46 花田一磨／1回）電気電子・情報・通信工学と産業を担当する。（30 佐々木崇徳／2回）人文科学（歴史・文化、言語・文学、生活）を担当する。（37 田中義幸／1回）自然科学（自然・環境、生態、地学・地質、資源・エネルギー）を担当する。（35 高橋 晋／2回）機械工学・化学工学と産業、健康・食品工学と産業を担当する。（6 金子賢治／1回）建築・土木工学と産業 を担当する。（15 皆川俊平／1回）芸術・デザインと産業を担当する。（6 金子賢治・15 皆川俊平／5回）（共同）北東北八戸の特長・話題・課題（事例紹介）を担当する。	オムニバス
		主題別ゼミナールⅠA		演習科目。工業技術を学ぶにあたって、その教養を担う少人数制の専門ゼミナールである。主題別ゼミナールⅠでは、より専門的なテーマを扱う。高校と大学の「学び」のスムーズな接続を目指し、専門分野の「学び」へつながる基盤を構築する。講義を通して、共通教育科目や工学基礎に関する基礎知識を確立し、さらにレポート作成やプレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢や、問題発見・解決能力を身につける。主題別ゼミナールⅠAでは、主に専門分野の導入を目的とした基礎的な内容を実施する。	
		主題別ゼミナールⅠB		演習科目。工業技術を学ぶにあたって、その教養を担う少人数制の専門ゼミナールである。主題別ゼミナールⅠでは、より専門的なテーマを扱う。高校と大学の「学び」のスムーズな接続を目指し、専門分野の「学び」へつながる基盤を構築する。講義を通して、共通教育科目や工学基礎に関する基礎知識を確立し、さらにレポート作成やプレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢や、問題発見・解決能力を身につける。主題別ゼミナールⅠBでは、ⅠAで学んだ基礎を応用し、発展的な内容とする。	
		主題別ゼミナールⅠC		演習科目。工業技術を学ぶにあたって、その教養を担う少人数制の専門ゼミナールである。主題別ゼミナールⅠでは、より専門的なテーマを扱う。高校と大学の「学び」のスムーズな接続を目指し、専門分野の「学び」へつながる基盤を構築する。講義を通して、共通教育科目や工学基礎に関する基礎知識を確立し、さらにレポート作成やプレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢や、問題発見・解決能力を身につける。主題別ゼミナールⅠCでは、より専門性の高い内容を実施する。	
		主題別ゼミナールⅠD		演習科目。工業技術を学ぶにあたって、その教養を担う少人数制の専門ゼミナールである。主題別ゼミナールⅠでは、より専門的なテーマを扱う。高校と大学の「学び」のスムーズな接続を目指し、専門分野の「学び」へつながる基盤を構築する。講義を通して、共通教育科目や工学基礎に関する基礎知識を確立し、さらにレポート作成やプレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢や、問題発見・解決能力を身につける。主題別ゼミナールⅠDでは、専門的に学んだ内容を深化し、さらに他分野への発展など創造性の高い内容とする。	

基盤科学科目		主題別ゼミナールⅡ		演習科目。学生は、興味・関心の高いテーマを受講し、各教員の指導を受ける。主題別ゼミナールⅡでは、主題別ゼミナールⅠでの学びをさらに発展させ、講義に積極的に参加し、オブザーバーやファシリテーターの役割を担う。講義を通して、専門科目に活かせる広い視野を身につけ、立場の異なる様々な視座があることを知る。迅速に変化する社会や環境の変化に適応し、初めて体験する事態に直面しても問題を解決するための素地を養うことを目的とする。	
		主題別講義A		講義科目。企業等による寄付講座で、各分野の現場に於ける最先端の話題や、地域課題に関わる内容をそれぞれの専門家などを招いて講義する。主題別講義Aでは、エネルギー産業に関する講義を行い、国内外の社会情勢を踏まえ、青森のエネルギー産業が果たす役割と、エネルギーに関する地域の課題等について学ぶ。	
		主題別講義B		講義科目。企業等による寄付講座で、各分野の現場に於ける最先端の話題や、地域課題に関わる内容をそれぞれの専門家などを招いて講義する。主題別講義Bでは、生活を支える「インフラ」の仕組みについて講義を行い、社会基盤となるインフラについての理解を深める。将来、技術者としての働く姿をイメージすることにつなげる内容とする。	
		主題別講義C		講義科目。企業等による寄付講座で、各分野の現場に於ける最先端の話題や、地域課題に関わる内容をそれぞれの専門家などを招いて講義する。主題別講義Cでは、八戸地域を取り巻く経済・産業、文化に関する内容の講義を行う。電気、建設、酒蔵、デザイナーなど地域で活躍する講師の話を聞き、八戸地域や社会における仕事についての理解を深める。	
	情報数理科学科目	数学基礎		講義科目。様々な学習歴に合わせて、理工学分野で用いる実数や複素数、方程式などの取り扱い方や1次関数、2次関数、いろいろな関数や図形と方程式の基礎を学ぶ。理論的に厳密な証明より、例を中心とした説明によって理解に努める。また計算技術の習得と充実を目指して、問題演習に力を入れる。	
		微分		講義科目。理工学分野における「言語」の1つである微積分のうち積分の概念とその計算方法を学ぶ。計算ができることは理工学分野には必須である上に、実際専門科目で用いるためにはその概念も正しく理解しておく必要がある。本講義では、まず積の微分や合成関数の微分といった一般的な微分の計算規則をべき関数や、三角関数、指数関数などの1変数の初等関数の微分を通して学ぶ。その上で、一般の関数のテイラー展開について学ぶ。	
		積分		講義科目。理工学分野における「言語」の1つである微積分のうち積分の概念とその計算方法を学ぶ。計算ができることは理工学分野には必須である上に、実際専門科目で用いるためにはその概念も正しく理解しておく必要がある。本講義では、置換積分や部分積分などの積分の計算規則について、1変数の初等関数の積分や有理関数の積分を通して学び、面積などの応用について学ぶ。	
		線形代数		講義科目。理工学分野における「言語」の1つである線形代数の目的とその計算方法を行列の計算を通して学ぶ。行列における演算方法、行基本変形による連立1次方程式の解法、行列式や逆行列の計算方法とその意味を学び、対角化の方法を学ぶ。行列の演算については、その計算規則が数の計算方法と比べ特殊であるため、計算方法の習得には演習量を多くこなす必要がある。線形代数を用いた計算は様々な分野で登場し、特に理工学系の分野では大規模な行列として登場することも多い。そのため、本講義を通して一般的な計算手法を学ぶことを目的とする。	
		確率・統計		講義科目。確率と統計は、理工学系分野に限らず現在では広く用いられている。その内容を正しく学ぶためには、微分積分と線形代数の知識は必須である。確率と統計は数学を応用した分野であり、計算手法を学ぶことも大事であるが、計算結果が何を意味しているのかを理解することも非常に重要である。そこで、確率では条件付き確率や正規分布などについて学び、統計においては推定や検定などの手法を学ぶと同時に、計算結果の意味について学ぶことを目的とする。	
		解析学Ⅰ		講義科目。理工系の大学生にとって数学は必須である。本講義では自然科学や工学を学ぶ上で必要になる数学の基本事項を身に付ける。偏微分と重積分を中心に色々な方程式の解法の基礎を学ぶ。しかし、理論的に厳密な証明は避け、例を中心とした説明によって理解に努める。また計算技術の習得と充実、計算力の向上を目指して、問題演習に力を入れる。	
		解析学Ⅱ		講義科目。理工系の大学生が自然科学や工学を学ぶ上で必要になる概念と手法を身に付ける。本講義では微分方程式の解き方を学び、それと同時に微分方程式の意味を理解する。また、Laplace変換を学ぶことで、Laplace変換の効能と演算子の意味を学ぶ。また計算技術の習得と充実、計算力の向上を目指して、問題演習に力を入れる。	
		幾何学		講義科目。理工系の大学生が自然科学や工学を学ぶ上で必要になる概念と手法を身に付ける。本講義では曲線と曲面の微分幾何について学ぶ。また、多様体上の微分幾何学およびトポロジーへの自然なつながりについて学ぶ。	

		AI・データサイエンス入門	○	講義科目。本科目は、今後のデジタル社会において、AI・データサイエンスを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることを目標としている。そして、AI・データサイエンスを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」を重点的に教え、学生に好奇心や関心を高く持ってもらう魅力的かつ特色ある内容を扱う。AI・データサイエンスを活用することが「好き」な人材を育成し、次の学修への意欲、動機付けを行う。また、工学・デザインの専門分野におけるAI・データサイエンス等の利用事例を紹介する。（オムニバス方式／全15回）（62 熊谷駿／9回）社会とAI、社会におけるデータの利活用、データ・AI利活用のための技術の概要等を担当する。（42 杉本振一郎／1回）データ・AI利活用の実際：機械工学分野を担当する。（46 花田一磨／1回）データ・AI利活用の実際：電気電子通信工学分野を担当する。（22 小久保温／1回）データ・AI利活用の実際：システム情報分野を担当する。（24 藤田敏明／1回）データ・AI利活用の実際：生命環境科学分野を担当する。（4 高瀬慎介／1回）データ・AI利活用の実際：建築・土木工学分野を担当する。（13 高橋史朗／1回）データ・AI利活用の実際：感性デザイン分野を担当する。	オムニバス
		データアナリティクスⅠ		講義科目。データサイエンスの実践として、実際に統計分析ソフトを用いた、データ分析技術について学ぶ。統計分析には広く用いられるようになってきている、Rを用い、「記述統計、グラフ（相関・散布図行列、パイオリン図など）」「確率分布、中心極限定理」「二項分布、検定、信頼区間」「最尤推定、ポアソン分布」「フィッシャーの正確検定、カイ2乗検定」「オッズ比、相対危険度、ファイ係数、マクネマー検定」「t検定、分散分析」「相関係数、ピアソンの相関係数、順位相関係数」「最小二乗法、ポアソン回帰」「ロジスティック回帰、ROC曲線」「一般化線形モデル、非線形一般化線形モデル」「主成分分析、因子分析」「ノンパラメトリック検定、ブートストラップ」「生存時間分析」について学ぶ。	
		データアナリティクスⅡ		講義科目。各分野で盛んに取り上げられるようになってきている、AIの実践として、AI分野でよく用いられているプログラミング言語Pythonを用いて、「機械学習の基本的な手順と概念」「ベイズ識別、ベイズアンネットワーク」「最小二乗法、ロジスティック識別、確率的最急勾配降下法」「線形回帰、回帰木、回帰モデルの評価、正則化、バイアス-分散のトレードオフ」「SVM、文書分類」「ニューラルネットワーク、バックプロパゲーション、深層学習」「畳み込みネットワーク、リカレントニューラルネットワーク、画像の識別」「アンサンブル学習：バギング、ブースティング」「クラスタリング、異常検知」「パターンマイニング、推薦システム」「系列データの識別」「半教師あり学習と強化学習」について学ぶ。	
	自然科学科目	物理学概論		講義科目。工学の基礎となる物理学について、暗記や計算を主とするのではなく、物理科学・自然科学の考え方をジックリ学び、自分が納得できるものを把握しようという授業である。基礎的な事項にポイントをしぼり、歴史的な話や他分野との関わり、日常体験（と非日常的な事実）との関連を重視し、演示実験も交えて古典物理学の概略を学ぶ。	共同
		基礎物理学Ⅰ		講義科目。本科目の授業内容は古典物理学のうち、力学と振動・波動である。専門課程を履修するに当たって、最低限必要な力学の基本的概念を身近な現象や歴史的な話も含めて以下の項目を目的に講義する。 1. 空間における運動や物体にはたらく力の概念を一次元の運動や力に分解して説明することができる。 2. 与えられた束縛条件の下で運動方程式を立て、これを与えられた初期条件下で解き、その物理的意味を説明することができる。 3. 仕事と力学的エネルギーの関係を見出し、説明することができる。 4. 質点系や剛体の回転運動について説明することができる。 5. 波動を媒質中の力学的振動の伝搬として説明することができる。 6. 波動の特徴的な性質を説明することができる。	共同
		基礎物理学Ⅱ		講義科目。本科目の授業内容は古典物理学のうち、熱学と電磁気学である。専門課程を履修するにあたって、最低限必要な電磁気学の基本概念を身近な現象や歴史的な話も含めて以下の項目を目的に講義する。 1. 電荷や磁荷が形成する電場や磁場を使って、関連する電磁現象を説明することができる。 2. 導体や誘電体の内部の電場について説明することができる。 3. 回路中を電荷が移動し電流があるとき、回路中の電位や回路の分枝の電流について説明することができる。 4. 電荷の移動である電流が磁場をつくることについて、関連する電磁現象を説明できる。 5. 磁場の時間的変化が電場を生じさせることについて、関連する電磁現象を説明できる。 6. 電場の時間的変化が磁場を生じさせることについて、関連する電磁現象を説明できる。	共同

		現代物理学概論		講義科目。物質の示す様々な性質を、原子・分子や電子による多体的な効果として、ミクロな立場から統一的に概説し、熱統計物理学と、主に固体の物性について、原子や電子の挙動から概観し、新奇機能を示す人工物質の設計について紹介する。熱現象を原子や分子の運動から理解し、統計力学の手法を説明することができること、固体の示す熱伝導、電気伝導などの様々な性質を、原子・分子や電子のレベルにまで立ち入ったミクロな立場から統一的に説明することができることを目的とする。	共同
		物理学実験		実験・実習科目。実験一般に共通する事項を扱う基礎実験と、物理的関係を実験的に確認するテーマ実験からなり、以下の項目を目的として開講する。・適切な準備の元、授業に臨み、実験テーマに対して適切に取り組むことができる。・実験テーマに関わる物理学の知識を基に、各テーマで検証・確認すべき物理的事実（仮説）を提示できる。・測定器の使い方や測定データの取り扱い方、グラフの提示方法などを適切に用いて実験・観察することができる。・実験で得たデータを基に、適切な操作によって、仮説の成否を論じることができる。・実験の目的から結論に至る内容を、科学的な構成を伴ったレポートにまとめることができる。基本的には、基礎実験は各自で、テーマ実験は2人1組で実験を行う。	共同
		基礎化学Ⅰ		講義科目。本講義は基礎化学Ⅰ、Ⅱを通じ、化学にあまりなじみのない学生も対象として、専門課程を履修するに当たって最低限必要な化学の知識すなわち物質の構成とその変化についての基本的な概念と事項を中心に講義する。我々人類が化学をどのように発展させてきたかという歴史的側面から始まり、化学の基礎知識として原子・分子の内部構造、周期表、共有結合やイオン結合などの化学結合、化学反応式などに対して理解を深めることを目標とする。	
		基礎化学Ⅱ		講義科目。本講は基礎化学Ⅰに引き続いて開講される。本講義においては、化学反応、反応熱、物質の三態（気体・液体・固体）、反応速度について理解できるようになることを目的とする。様々なタイプの化学反応について、化学反応式を正確に記述できるようになるだけでなく、基礎的な化学量論を理解し、熱化学反応を記述できるようになることを目標とする。また、物質の三態を原子・分子の視点から理解し、化学反応はどのようにして進むか理解できるようになる。	
		化学実験		実験・実習科目。学生たちが主体的に実験に取り組むことを通じて、基礎化学Ⅰ、Ⅱなどの講義科目で得た知識をより深く習得・定着させることを目的とする。受講者自らの手で得たデータを基にその整理法や報告の仕方を学び、化学現象に対する興味と理解を深める。全体を通して2人1組で実験を行う。各テーマ毎の実験が終了した後、各自が報告書を作成し、次回の実験の開始前に指定場所に提出しなければならない。レポート指導の時間は、各自の報告書の訂正指導や質問などを受け付ける。	
		生物学		講義科目。生物個体のもつ基本的特性である「物質交代とエネルギー交代」、「恒常性と調節」、「連続性」の三つを学ぶ前に、「生命の単位」について学ぶ。また、後半では「生物の集団」および「生命の変遷」など個体レベル以外での生命現象や「生物と環境」について学ぶ。講義を通して、1環境汚染・人口爆発など人類の未来を危うくする問題の解決に役立つ、現代社会における基本的な教養としての生物科学の基礎知識を身につけ、さまざまな生命現象や地球の生態系などについて、広く理解することを目標とする。	
		海洋学の基礎と未来		講義科目。海洋には、石油・天然ガスなどのエネルギー資源や鉱物資源が豊富に賦存しており世界の企業が開発を競っているが、一方で海洋は気候・気象や地球環境、生物圏に大きな影響を与えるとともに、広く、深く、深海底は高圧、暗黒かつ電波の届かないうえに荒天や海流などのために開発が困難な場所であり、これらを克服して探査・開発するための多様な人材の育成が求められている。本授業においては、海洋学と海洋工学に関する基礎的な知識を習得して、2年次以後のより専門的な学習の基盤を養、①海洋学に関する基礎知識として、海洋環境、海洋物質循環、海洋生物学、海洋工学などの分野を学ぶための基本となる知識を習得、②海洋工学に関する基礎知識として、船舶工学、海岸工学、海中機器・技術、海洋観測技術および海洋資源、海洋エネルギーに関わる基礎知識を習得、を目指す。	
		地学概論		講義科目。地学の基礎として、地球のすがたやその歴史、海洋および大気について解説する。また、気候変動や自然災害などをについても、身近に事例に基づきに解説する。さらに、宇宙空間における地球や、地球を取り巻く宇宙環境についても学ぶ。これらを通して身近な地学的事象・現象を理解するための基礎知識を習得する事を目標とする。	

デザイン 学科目	地球環境論	○	講義科目。本講義では、地球環境を憂えて現状を単に学ぶだけではなく、原因、今後の予測および改善方策について工学・技術的に考え、土木建築工学を学ぶための基礎とする。地球環境の時代にあたって、問題と対策の概要を知ることが大学生にとって必須であり、次の目標を達成するために学習・教育を行う。 ①地域と地球の環境問題と自然環境に関する用語と基本事項に関して理解する。 ②環境問題の解決にあたって、技術者が持つべき責務と倫理に関して理解する。 ③地球的視点で人類の未来を考えられる素養の定着を図る。	
	カーボンニュートラル入門	○	講義科目。高大連携科目。本講義はカーボンニュートラル（CN）社会の全体像を知ること、多分野知識が必要になること、知識を活用すること、を習慣化することを目的とする。 （オムニバス形式／全15回） 1) 環境問題の歴史（33 折田久幸）、2) SDGsとカーボンニュートラル（33 折田久幸）、3) 自動車（27 浅川拓克）、4) 風力発電（23 小玉成人）、5) 蓄電池（30 佐々木崇徳）、6) 太陽光発電（46 花田一磨）、7) 省エネシステム（46 花田一磨）、8) 送配電（46 花田一磨）、9) グループワーク（36 小林正樹、33 折田久幸、31 信山克義、46 花田一磨）、10) 水素化（33 折田久幸）、11) CO2変換（36 小林正樹）、12) プラスチック循環（31 信山克義）、13) セメント分野の脱炭素（5 阿波稔）、14) 上下水分野の脱炭素（7 鈴木拓也）、15) グループ発表（36 小林正樹）	オムニバス
	デザインと技術	○	講義科目。ものづくりのプロセスにおけるデザインの役割についての概要を知るとともに、工学の各分野におけるデザイン事例に基づき、デザイン思考やデザインプロセスが製品に活かされる効果を理解することを目的とする科目。（オムニバス方式／全15回）（63 戴周杰／1回）デザイン学の基礎を担当する。（2 宮腰直幸／2回）デザインプロセスとプロダクトデザインを担当する。（28 鈴木寛／2回）機械工学分野を担当する。（29 石山武／2回）電気電子通信工学分野を担当する。（21 伊藤智也／2回）システム情報工学分野を担当する。（41 星野保／2回）生命環境科学分野を担当する。（5 阿波稔／2回）土木工学分野を担当する。（19 吉浦温雅／2回）建築学分野を担当する。	オムニバス
	デザイン思考概論	○	講義科目。デザイン思考型の考え方を理解して身につけ、デザイン思考型のワークショップを中心として、共感（Empathize）、定義（Define）、概念化（Ideate）、試作（Prototype）、テスト（Test）のプロセスを体感する。同時にグループワークを実践しながら、問題解決能力を高め、デザイン制作の原点としての心構えと基本的なスキルを体感する。	
	デザインリテラシー		講義科目。ビジュアルデザインが社会と人間生活に果たす役割は重要であり、今後も発展性が望まれる分野である。視覚表現について構成要素や色、配置などの、効果的手法を論理的に学び体得する。ポスター表現による実践を通して、ビジュアルデザインの発信力を理解する。	
	美術史		講義科目。美術史は、太古の文明の発達以前から今日まで続いてきたものです。その理由は、美術は非言語かつ文字に依存しない『伝達手法』であるからで、美術史の変遷は、ひとえに『人々のコミュニケーションの在り方の変遷』でもあります。 本講義では、知識・教養としての美術史の概要を押さえつつ、今日の生活・文化における美的感覚との関係性を明らかにしていきます。	
	色彩学		講義科目。私たちの身の回りには様々な色があり、色は不思議な性質や力を持っている。デザインや建築を学びつくっていくうえで、色彩を無視することはできず、色彩を効果的に扱うことで、テーマやコンセプトをより明確に表すことができる。 この授業では、色彩についての知識を習得する講義と、実際に色彩を用いて配色テクニックを試していく実習を行う。	
	ユニバーサルデザイン	○	講義科目。現代社会において、ユニバーサルデザインは建築デザインやデザイン分野で基本となる理念である。ユニバーサルデザインとは、”すべての人が利用可能なデザイン”を意味するが、この授業では”すべての人”に該当する健常者をはじめ、障がい者や高齢者、子ども等についての生活環境に関する理解、ユニバーサルデザインが必要とされる様々な場面を事例を通して学習する。すべての人に対応したデザインという理念のユニバーサルデザインに取り組むことは難しい問題ではあるが、それを目指してデザインすることが必要である。	

		デザイン基礎演習ⅠA（デッサン）		演習科目。デッサンは、線（を／で）描くこと、下絵などの意味があり、アイデアをひとまず線として表すことであり、表現分野では「ドローイング」とも呼ばれる。しかし、デッサン自体をひとつの「作品」として仕上げることもある。 この授業では、 A：デザイン制作に関する領域（プロダクト、工芸、建築・インテリア・空間デザインなど）の『精緻に観察・描画していく課題』 それぞれの分野・領域における総合的な制作基礎技術の修得を目指す。	
		デザイン基礎演習ⅡA（デッサン）		演習科目。デッサンは、線（を／で）描くこと、下絵などの意味があり、アイデアをひとまず線として表すことであり、表現分野では「ドローイング」とも呼ばれる。しかし、デッサン自体をひとつの「作品」として仕上げることもある。 B：表現に関する領域（絵画・イラストレーション、彫刻、写真・映像など）の『発想・アイデア・素材の可能性を広げて描画していく課題』 それぞれの分野・領域における総合的な制作基礎技術の修得を目指す。	
		デザイン基礎演習ⅠB（表現技法）		演習科目。スケッチ、ドローイングなどの平面表現を主体とした課題制作の実践を通して、手を動かしながら考えるスキルを習得する。 課題提示→探索→ドローイング→気づき、といったサイクルで複数の課題に取り組む。	
		デザイン基礎演習ⅡB（図学）		演習科目。図学の能力はグラフィックデザインや立体のデザインに結びつき、また製品のイメージを他者に伝えるなど、コミュニケーションの能力にも関連します。この講義では作図演習を通して図学の作図法を習得し、図の原理を理解することを目指します。	
		デザイン基礎演習ⅠC（工芸）		演習科目。人々の生活における道具や身の回りの物の機能性や装飾性を探り、「工芸＝用＋美」であることの意味を理解した上で、材料、技術、などの工芸が成立するための条件を考察する。	共同
		デザイン基礎演習ⅡC（工芸）		演習科目。よりよく生きるための手段として、歴史と伝統の中に生きてきた工芸の良さの理解を深める。工芸品とプロダクトデザインの相違について理解する。	共同
		デザイン基礎演習ⅠD（写真）		演習科目。一眼レフカメラおよびフィルムカメラによる撮影、デジタルスキャンによる大判プリント出力など写真制作による実習を通してイメージが現れるプロセスの中で「いかに対象をとらえるのか」について自覚的に検討し、撮影にフィードバックさせていくことで社会や生活の中にある「ものの見方」の幅を広げる理論や技法を学ぶ専門教育の糧となることを目的とする。	
		デザイン基礎演習ⅡD（製造）		演習科目。木材加工に関する基礎的な知識や技術を身につけ、ものづくりにおいて図面から製品を実際に形にする基礎造形力を習得することを目指す。 実際に利用者を想定して道具や什器を制作することで、見た目のデザインの他に利用者のニーズに応じた使い心地、誰でも安心して使えるための構造など多角的な視点から検討することで、より精度の高いデザインワークを行う。	
		共創デザイン演習	○	演習科目。異なる学科/コースの学生を含むグループでデザインプロセスやデザイン思考を実践することを目的とするPBL型の科目である。総合情報学部、先進工学部およびデザイン工学部いずれも1名以上を含むグループを設け、地域の企業、コミュニティ、行政などが直面する課題について、協働してその解決に携わる共創活動を行う。解決策を構築するまでのデザインプロセスへの参加、解決策の提案と実践、ステークホルダーに対するプレゼンテーションと活動のリフレクションなど、共創的な活動の諸側面を体験し、実践知として修得することを目指す。	
専門科目	共通科目	デザイン工学概論	○	講義科目（15回）。造形・建築・国土など様々なスケールのデザインを概観し、機能や安全性、デザインと技術、技術者の社会的役割について、自然環境や歴史・文化を踏まえて学ぶ基礎科目である。 （オムニバス方式/全15回）（1 黒坂貴裕／1回）デザイン概論（全体総括）、（16 福士謙／2回）建築デザイン概論（建築設計）、（10 小藤一樹／2回）建築デザイン概論（都市計画）、（15 皆川俊平／2回）感性デザイン概論（表現表域）、（17 宇野あずさ／2回）感性デザイン概論（空間と立体領域）、（14 川守田礼子／2回）感性デザイン概論（地域とコミュニティ領域）、（9 竹内貴弘／2回）国土デザイン概論（建設と防災領域）、（7 鈴木拓也／2回）国土デザイン概論（環境保全領域）	オムニバス
		基礎情報科学D	○	演習科目。パソコンおよびネットワークに関する基礎知識などを修得するために、演習形式で授業を行う。セキュリティ、情報社会における倫理などの情報技術のスキルと応用能力に係わる基礎知識を身に付ける。授業の最後には自己紹介のプレゼンテーションを作成し発表する。	共同
		基礎製図	○	講義科目。製図用具の使い方、図面の種類、縮尺、線・文字・記号の表現方法について学習・訓練する。また、各種の図面をトレースすることにより、設計者の立場から意図する考えを図面に表現するための基本事項の理解と、作図に関する基本技術の修得を目的とする。また、施工者の立場から構造物として現場で具体化するための図面を読解する技術を学習する。	共同

		CAD/CG基礎演習	○	演習科目。2D CADの操作について学び、CADによる設計図面のトレースや透視図の作成方法について、講義と演習によって修得する。また、3D CADの操作について学び、設計対象の空間構成などの理解を深めるツールとしての使い方を、講義と演習によって修得する。	共同
		材料の力学	○	講義科目。材料の力学に関する基礎的な事項について講義する。力学の基礎である質点系の力学から始めて、剛体の力学、固体の力学的性質、材料内部の応力やひずみについて講義を行う。プロダクトデザインから土木構造物までを対象とする。	
		学外研修D		実験・実習科目。学外における建設・建築現場や既存の社会基盤施設を見学し、実践的な知識・技術について学習する。これまでに講義で学んだ知識の実際の現場との関わりを確認することで今後の学習のモチベーションを高める。さらに土木や建築工学に関連する知識や土木・建築技術者が社会とどのように関わっているかを現場見学により会得する。	
		インターンシップD		実験・実習科目。企業・地方公共団体等における2週間程度の職業体験を行うものである。これを通じて、これまでに講義で学んだ知識を確認するとともに、学内における講義、実験、実習などで得ることができない実践的な知識や技術を学習する。また、社会人として必要な人間力を養成する。さらに土木・建築工学に関連する知識や土木・建築技術者が社会とどのように関わっているかを会得する。最後に、事後研修で実施報告書を作成し、実施報告書をもとに研修報告を行なう。	
		サーキュラーデザイン演習	○	演習科目。循環型経済（サーキュラーエコノミー）の実現に不可欠な、製品やサービスの設計段階から、廃棄物や汚染を排除し、資源を循環利用できるようにするデザイン手法を学び、実際にデザインや製造を行う。各プログラムを組み合わせたグループワークを行い、実践的課題について統合応用能力、制約条件下での課題解決力、プロジェクト・マネジメント力、チームワーク力の向上を目標とする。	共同
		地域創生デザイン演習	○	演習科目。これまで学んだ知識を総合し応用することでグループによる課題解決実習を行う。八戸市内から課題を選択し、都市計画や地域の活性化など実際の課題について解決法を検討することを目的とする。建設プロジェクトとマネジメントの基本について理解し、実践的課題について統合応用能力、制約条件下での課題解決力、プロジェクト・マネジメント力、チームワーク力の向上を目標とする。	共同
		デザイン工学ゼミナールⅠ	○	演習科目。各専門科目教員による少人数制の専門ゼミナールである。各教員の専門分野について、研究を実際に体験する。専門分野の「学び」へつながる基盤を構築する。講義を通して、レポート作成やプレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢や、問題発見・解決能力を身につける。	共同
		デザイン工学ゼミナールⅡ	○	演習科目。各専門科目教員による少人数制の専門ゼミナールである。各教員の専門分野について、研究を実際に体験する。卒業研究へつながる基盤を構築する。講義を通して、レポート作成やプレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢や、問題発見・解決能力を身につける。	共同
		卒業研究D	○	演習科目。卒業研究指導教員のもとの少人数教育を実施し卒業研究または卒業設計に取り組む。専門知識とその応用・展開・指導能力を身に付けるとともに、技術者倫理や問題解決能力、発表力、自主的継続的に学習できる能力などを総合的に学ぶ。	共同
	感性デザイン科目	フィールドワーク演習		演習科目。地域社会の現状についての興味・関心を喚起し、課題解決に向けた実践的なデザイン活動を展開していくための基礎的な専門知識とスキルの修得を目指す。本授業では、フィールドワークに関する基礎的な理解を図った上で、フィールドワーク実践の進め方を体験する。さらに、地域社会の活性化に向けた実践事例に関わる多様な主体との共創体験を通じて、学生自らが主体的に学ぶための対話力と思考力を身につける。	
		タイポグラフィー		講義科目。情報を簡潔に分かり易く視覚化するロゴタイプデザインのテクニックを、論理的に学び実践する。文字情報としてキャッチコピーの効果的作成方法を体得し、タイポグラフィーの創造性を拡大する。	
		ビジュアルデザイン演習		演習科目。地域への関心を喚起するための調査・演習と、必修課題と選択課題によるグラフィックデザインに関する技能の実習・実技を行なっていきます。まずは、各々の関心に基づき、イラストレーションまたはピクトグラムの中からいずれかを選択して制作し、次に、パターングラフィックス作成の技術を応用展開し、地域の商品を原案としたパッケージデザインの制作を行います。実際に地域で流通している既存商品の「良さ」と「改善点」を抽出し、顧客イメージ（ペルソナ）の策定、ニーズに沿ったデザインの提案と制作までを包括的に学習します。	
		材料・塗装学		講義科目。造形デザインにおける材料及び塗装剤の基礎知識を学ぶことで、製作から鑑賞に至るまでの安全対策と効果的な表現方法に繋げる。対象は化学材料から伝統材料まで幅広く扱う。	

現代芸術論		講義科目。芸術はそれ自体で完結するものではなく、作品を取り巻く様々な要素によって意味づけられています。この授業では、プラトン、アリストテレスにはじまる西洋美学の中心には、詩学があったことを踏まえつつ、芸術思潮および批評理論の概説を行います。また、芸術作品を鑑賞する（見る・読む・聞く）ことの方法、意義、その目的など批評活動の概念を紹介します。	
応用デザイン演習ⅠA（絵画）		演習科目。絵画Ⅰの演習では、主に水彩に重点をおき、基本的な技術と知識を習得しつつ、絵画的視点・色彩に対する感受性を養い、「表現する力」の向上を図ることを目標に学習する。 画材の特性を知り、演習・実習を通して基本的な技術を身につけながら、イメージを絵画的に表現することができるようになることを目指す。	
応用デザイン演習ⅡA（絵画）		演習科目。絵画Ⅱの授業では、主に油彩画に重点をおいて学習する。絵画Ⅰで学んだ水彩画の知識をもとに、油彩や アクリル、いろいろな表現方法や画材の使い方を学びながら、表現や鑑賞の能力をさらに深く追求する。油彩、アクリルなどいろいろな絵の具や画材を知り、各種イメージを絵画的に表現することができるようになることを教育の目標とする。これらを、専門基礎原理の理解力として修得する。	
応用デザイン演習ⅢA（彫刻）		演習科目。様々な素材を扱い、カービングやモデリング等の彫刻や彫塑の技法を通して、立体表現の技術を高めるとともに、イメージした形を三次元的にとらえる感覚を養う。美術作品としての彫刻表現のみならず、デザインや企画における立体物によるプレゼンテーションや、空間把握等の能力育成をはかる。	
応用デザイン演習ⅠB（イラスト）		演習科目。イラストレーションは、写真やタイポグラフィとともに、一般的な視覚表現の手段であり、いろいろな媒体に使われている。その種類、技法は多種多様であり、その善し悪しは何をどんなアイデアで表現するかにかかっている。この講義では、いろいろなイラストの手法、アイデアを探りながら、自分のオリジナル作品を制作する。	
応用デザイン演習ⅡB（イラスト）		演習科目。イラストレーションⅠで学んだ基礎知識をもとに、イラストレーションⅡの授業では、より深くアイデアや表現を探り、専門的な技術や手法でいろいろなオリジナル作品を制作する。	
応用デザイン演習ⅠC（工芸学）		演習科目。人々の生活における道具や身の回りの物の機能性や装飾性を探り、「工芸＝用＋美」であることの意味を理解した上で、材料、技術、などの工芸が成立するための条件を考察する。よりよく生きるための手段として、歴史と伝統の中に生きつuiteきた工芸の良さの理解を深める。工芸品とプロダクトデザインの相違について理解する。	
応用デザイン演習ⅡC（プロトタイプ）		演習科目。個人やグループで主に立体を中心としたプロトタイプの制作を行い、その活動を通じてデザイン制作や構想の実現のための基礎的な造形感覚と行動力を養う。さまざまな実践的な課題を通じて、実際に素材に触れ、自身のアイデアを体感したり、教員やクラスメートに対してプレゼンテーションしたりしてその思索を深めていく。	
応用デザイン演習ⅢC（プロダクト）		演習科目。人々の生活に対して新たな価値を提供したプロダクトや課題を解決したプロダクトのデザインの事例を学び、これを元に新たなプロダクトデザインを考える。調査から構想、具現化までの一連のデザインプロセスを体験しながら、デザインに必要とされる基礎的な知識を身につける。	
応用デザイン演習ⅠD（映像）		演習科目。映像制作、画像編集、等について学び、実践として自身の映像作品を制作して発表する機材として主に、自身のコンピューター、スマートフォン等のカメラを利用する。映像制作の今日的な役割と、映像制作の仕組み、およびコンテンツの作成方法について理解する。	
応用デザイン演習ⅡD（Web）		演習科目。webの基礎として、メディアリテラシーについて学び、その後はコンテンツの作成を念頭に置き、映像制作、画像編集、等について学び、それらを組み込みながらwebページを作成する。webデザインの持つ今日的な役割と、webページの仕組み、およびコンテンツの作成方法について理解する。	
インターメディア造形演習Ⅰ		演習科目。生活や社会に基づいた課題や仮説を引き出し、制作及び調査を通じて価値を探究する過程を通して、デザインプロセスを理解する。次に、造形の魅力や新規性などデザインが果たす価値創造やその効果について理解する。そしてプレゼンテーション（講評会や展示など）を通じて、提案する価値を効果的に伝える技術・知識を習得する。	共同
インターメディア造形演習Ⅱ		演習科目。より専門的なデザイン領域の知識・技術を習得するため、本授業は各教員が指定する「選択演習」を設定し、各学生はいずれかひとつの演習を選択し、受講する。いずれのカリキュラムも各学生個人の「個人制作」を基盤にした演習を行う。	共同
感性デザイン総合演習		講義科目。地域連携プロジェクトやコンペを課題として、調査→アイディア展開→モデル制作によるトライアル→プレゼンテーション→改善、5段階のデザイン作業を連動させた総合型のデザイン演習をアクティブラーニングとして実践する。	

建築デザイン科目	アートプロジェクト		演習科目。学外での展示発表等を行うもので、これまでの学習・習得した技術を活用する。アートプロジェクトとは、地域におけるさまざまな課題を解決する、または新たな社会的問題を提起するにあたって、アート（美術・芸術）の表現を活用するものであり、その実施形態はアートに限らず、さまざまな企画を含め総合的な構想（デザイン）を行う。	
	地域デザインプロジェクト		演習科目。紙業企業の協力のもと地域の名産品を題材にしたパッケージデザインのリデザインを課題として取り組む。パッケージデザインの対象となる「紙」の素材特性（質感・加工・形状）を理解し、企業との共同作業を通じて実践的なデザイン提案を行う。グループワークを取り入れ、企画構想から試作品制作へと段階的に取り組むことで、より完成度の高いデザインを目指す。	
	建築史		講義科目。歴史的な視点から建築が成立した背景（社会・文化・技術・経済・理念・材料等）を総合的に捉える能力を身につける。国内外の歴史的建造物を観察・説明するために必要な基礎的な能力を身につける。前半は日本建築史について学習する。後半は西洋建築史について学習する。	
	近代建築・デザイン史		講義科目。産業革命以降の工業化にともなうプロダクトデザインおよび建築デザインの展開について習得し、またそれらが明治時代以降の日本へ与えた影響と近現代までのデザインの展開について習得することを目的とする。前半はヨーロッパの近代デザイン運動の変遷を学習する。後半は近代デザインの日本への導入から世界の近現代デザインを俯瞰して、そのデザイン思潮の現在に至る変遷を学習する。	
	インテリアデザイン		講義科目。人間の多様な場面での住要求に対応するインテリアデザインの手法や役割を理解することを目指し、住宅と社会、住環境の知識、インテリアデザインの歴史や変遷、また、家具やインテリアエレメント等を学ぶ。また、インテリアデザインをより実践的に扱うことができるよう、有名デザイナーの手掛けた家具や空間を参考に、住空間の提案力・表現力の基礎を身に付ける。	
	CAD/CG発展演習		演習科目。デザインにおける立体データの作成道具としてCADを活用し、正確な3Dモデルを構築する手法を習得することで、造形活動の基礎となる技術を体系的に理解する。CADソフトの具体的な操作を通じて、3D基本操作から家具・建物といった具体的な対象のモデリング、さらにレンダリングなどのCG技術の基礎までを幅広く学習する。	共同
	音と光の建築環境学		講義科目。建築計画において問題になりやすい室内の吸音、残響、騒音に関する知識、エネルギー消費や快適性を左右する採光、照明計画に関する知識を幅広く習得することで、建築空間の音・光環境を物理的にも理解した建築設計を行う為の基礎を築く。音環境、光環境に関わる物理現象とその記述法、音響計画、騒音対策、採光・照明計画等の基礎的事項及び計算法などを概説する。	
	住居計画		講義科目。住居の成立に関わる基礎的な知識を修得し、人々の生活と住空間との関係について解説し、住居の住み方の特質と計画上の課題について講義を行う。具体的には、住居の歴史、住宅の計画、住宅の設計、住宅の構法と設備、集合住宅の計画、維持管理、リノベーションについて講義を行う。	
	建築材料学		講義科目。建設材料に共通な基本事項の講義に始まり、構造躯体に用いられる「コンクリート」「鋼材」「木材」を中心として講義するほか、建設分野において用いられる各種材料（仕上げ材、機能性材料、リサイクル材料等）の性質や特徴について講義を行う。また新材料の開発や用途および、材料の生産と環境についても講義する。	
	建築材料実験		実験・実習科目。建築構造材料（木材、コンクリート、鋼材）の物性・機械的性質および建築仕上げ材料（ボード類）の防火性について実験を行い、これらの材料の特性等に関する基本知識を身につける。 1. 建築構造材料の性能および建築仕上げ材料の防火性能の基本事項に関する知識を身につける。 2. 性能試験法、データ処理法および報告書作成の基本事項に関する知識を身につける。	共同
	建築計画		講義科目。建築空間における人間の行動や意識の振る舞いについて具体例を挙げながら概観し、人間と建築空間の関わりを学ぶ。また、これまでの建築計画の原理をビルディングタイプ別に学び、人間の振る舞いに対する建築計画的な手法を学ぶ。さらに、社会における建築計画の考え方について事実を踏まえた上で考察し、各種施設を計画する能力を身につける。	
	建築法規		講義科目。建築法規の集団規定・単体規定・手続き関係等、および都市計画法・消防法、設計者の資格や建設工事における安全性を確保するための建築士法や建設業法、バリアフリー法や建築と関わりのある関連法規など、法規の考え方・体系・概要の解説と法令集を用いた演習を行う。	

		建築設計Ⅰ		演習科目。建築物の設計を行う最初の演習で、1年時に学んだ製図技術を活用して建築物を設計する科目。小規模な建築物の設計エスキスを通して、図面を用いたコミュニケーション能力を養うとともに、スケール感覚、ゾーニング、動線計画、模型によるエスキスなど基本的な設計手法を習得する。設計課題の内容は店舗や戸建て住宅などである。	共同
		建築設計Ⅱ		演習科目。講義や演習などで得た知識を、建築の設計に結びつけていくことや美しい形や機能的なデザインについて学び、その表現の能力も養うことを目標とする。空間の機能やゾーニングとそのつながり、各部の設計、外部空間と内部空間のつながり、さらには形態のバランスなど、建築設計の基本を身近な施設の設計を通して学ぶ。設計課題の内容は図書館や集合住宅などである。	共同
		雪国の建築環境学		講義科目。温度・湿度・風・日射などの外界の気候要素の実態を把握し、安全・衛生・快適性、並びに効率の観点から要求される室内環境条件について学び、気象条件、生活条件が室内環境へ影響を及ぼす仕組みを理解した上で、望ましい環境を実現するための建物構成や設備のあり方について概説する。	
		建築生産施工DX		講義科目。現場技術者として建築の施工管理を行う立場から、現場運営に必要な合理的な施工プロセスとその実務の関連および管理技術を総体的に理解することに重点をおき、建築物が完成するまでの一連の流れをとおして各種の施工技術の全般について学習する。 1. 建設材料の基本的特性等に関する知識を身につける。 2. 各種建設材料の選択と使用のための基本知識を身につける。 3. 建設材料に関する基本用語に関する知識を身につける	
		建築設備		講義科目。給排水衛生設備、空調設備・電気設備の概要、用語の意味、各種工法の特徴、経済性、地球環境への配慮などに関して講義する。また設備計画、及び設備図面の読み方を学ぶ。授業の到達目標は以下である。 (1) 建築業界に携わるに必要な基礎知識を習得する (2) 地球環境に配慮した建築設備のあり方を理解する (3) 建築と調和の取れた建築設備計画の考え方を理解する	
		建築構造Ⅰ		講義科目。軸組構造（木造と鉄骨造）の建築構造について学ぶ。地球温暖化の防止にとって森林の果たす役割、循環可能な建築資材としての木造建物の重要性、木質構造材料の性質、木質構造の各種の構法、耐震性能の確保、環境と木質構造の関連などについて学び、木質構造の基礎を理解する。鋼構造の歴史、鋼材の性質、座屈・変形と許容応力度、幅厚比の規制、引張り材・圧縮材・梁・柱（柱脚）などの部材及び接合の設計、トラスの設計、そして塑性設計法の基礎知識とする。授業の到達目標は以下である。 1. 鋼構造の基本、鋼材の性質、許容応力度などの知識を身につける。 2. 各種鋼構造の部材や接合部の設計・計算方法を修得する。	
		建築設計Ⅲ		演習科目。各種の建築設計に対応できる設計能力の習得を目標に、計画・デザイン能力、表現能力の向上を目標とする。空間機能が比較的複雑な建築を対象として、建築計画、構造計画、デザインに関する設計表現力を身につけるための設計練習を行う。また併せて、北東北寒冷地での設計計画の理解を目標とする。	共同
		建築設計Ⅳ		演習科目。1)すまい創りの発想、2)生活イメージのまとめかた、3)空間構成及び構法のまとめ方、4)生活環境への配慮、5)図面プレゼンテーション手法について、設計課題を通じて習得する。個人で行う戸建住宅に関する課題とグループで行う集合住宅に関する課題を設けて、後者はより実務に近いグループ設計および模型制作による多様な発想を具体化する方法を身につける。	共同
		地盤工学Ⅰ		講義科目。地盤や各種構造物、基礎の成り立ち、基礎の種類と形式、各種調査と方法、直接基礎、杭基礎、中間基礎、基礎の設計方法及び耐震設計、留意事項等について講義を行う。	
		地域施設計画		講義科目。地域施設計画では、建築計画で学んだ各種の建築単体について、その集まりを建築的に計画する理論を学ぶ。また、これからの社会における建築計画の考え方について事実を踏まえた上で考察し、生活に欠かせない地域施設を計画する能力を身につける。さらに、地域社会の変化を踏まえた住宅地及び地域施設を計画する能力を身につける。	
国土デザイン		建築構造Ⅱ		講義科目。鉄筋コンクリート構造に関わる基礎知識、曲げ、軸力およびせん断力を受ける部材の設計方法を学習する。そして鉄筋コンクリート構造の基本的な原理、材料特性、梁や柱などの部材の断面・配筋量の計算方法を修得する。さらに鉄筋コンクリート構造のせん断補強および耐震原理に関する基本知識を修得する。	
		施工技術DX		講義科目。土木工学では実際の現場での施工技術や方法の知識や活用能力が重要である。施工の基礎から応用まで、実際の例をあげながら実務に役立つように講義する。講義を通じて、土工事、ダム、基礎工、コンクリート構造物、工事管理に関する基本事項を理解する。	

		構造力学Ⅱ		講義科目。はりの応力および静定ばりの変形を学習するとともに不静定構造物の断面力について学習し、土木建築分野において構造物の設計に必要なとされる力学の基本に関する知識を習得することを目的とする。	
		都市計画		講義科目。近代都市計画から現在の都市計画を踏まえて個別の建築物がどのように計画され、建設されているか都市計画上の手法（都市計画マスタープラン、用途・形態規制、市街地開発事業など）を中心に講義する。	
		道路・交通工学		講義科目。ハードとしての道路のデザインを学ぶ「道路工学」、その基礎となる自動車交通流などについて学ぶ「道路交通工学」、自動車以外の交通機関を対象に基礎的な知識を身につけるための「交通工学」、さらには交通施設計画の基礎的な知識を身につけるための「交通計画」までをも含む内容となっている。	
		水工学		講義科目。水の物性、静水力学、管水路、開水路、層流・乱流、水流の測定について設計・演習を行う。(1)水理学で使う専門用語の習得、水理学の定理や基本法則について基礎的な知識、(2)水工構造物の設計、配置計画、施工に必要な基礎知識を習得する。	
		水理学演習		演習科目。「水理学Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容を基に、河川事業を推進したり、それに携わる場合に必要な工学的な知識の習得を目的とした発展的な科目。降雨-出水の過程の理解を深め、洪水の発生メカニズムを理解し、洪水被害の軽減化を図るためにはどのようにすると良いのかを学ぶ。また、川には自然が豊富なことから、これまでの治水、利水工法を受け継ぎ、自然環境保全、親水空間の創造にはどのような工法があるのかを学ぶ。	共同
		水処理工学		講義科目。「上下水道工学」の内容を受けて、水処理（水質変換）の基本事項、および都市水代謝の要である浄水・下水処理システムについて授業する。次の目標を達成するために学習・教育を行う。 ①水処理の基本システム・環境保全上の役割・国内外での応用に関して理解する。 ②浄水処理の用語・原理・設計・運転に関して理解する。 ③下水処理の用語・原理・設計・運転に関して理解する。	
		橋工学設計・演習		演習科目。これまで修得している基礎製図、材料や構造に関する力学などの知識を総合的に駆使して、橋梁工学の基礎を学習し、橋梁設計の設計原理および設計手順を理解する。これら設計内容について、設計計算書および設計図面を作成することで、実務能力を養う。（オムニバス形式／全30回） (8 迫井裕樹／15回) RC T形はりの設計・演習を担当する。 (4 高瀬慎介／15回) Hビーム橋の設計・演習を担当する。	オムニバス
		地盤工学設計・演習		演習科目。地盤工学分野の講義で得た知識を用い、土構造物の設計に必要な基本的項目の演習を行い、それらを総合した形での具体的な土構造物の設計手法を学習する。これまでの知識を総合して実践的に実務に対応できる能力を習得することを目標とする。（オムニバス形式／全30回） (6 金子賢治／15回) 地盤工学分野の演習を担当する。 (59 非常勤 市川裕一郎／15回) 土構造物の設計を担当する。	オムニバス
		維持管理工学		講義科目。主にコンクリート構造物を対象に、構造物の劣化機構やその対策を理解し、維持管理の基礎を学ぶ。主な授業の内容は、①社会インフラの老朽化の現状と課題、②構造物の劣化機構と対策、③構造物の点検および診断の手法、④補修・補強の基本的工法、である。	
		火薬学		講義科目。公共構造物の基礎工事やトンネル工事の際に必要な火薬類の性質や発破に関する基礎的な知識を修得する。授業の到達目標は、火薬の性質、爆発現象、性能試験、貯蔵・消費・準備、爆発の加工・合成に関する基本事項を理解することである。	

- (注)
- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 - 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。